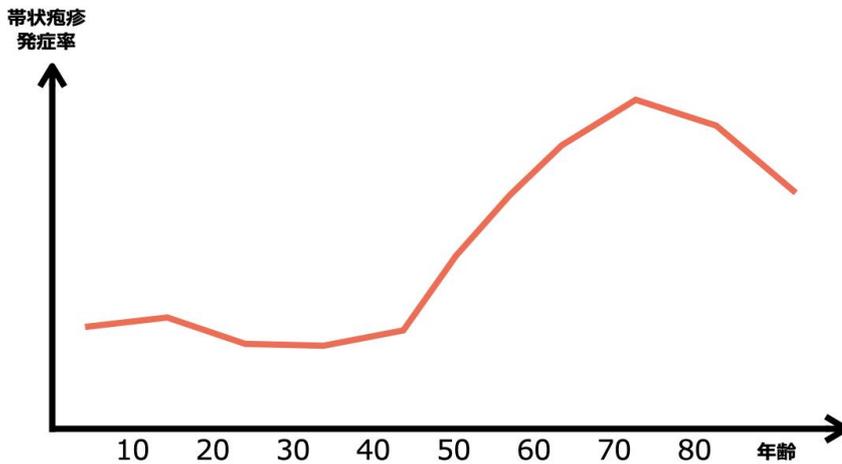
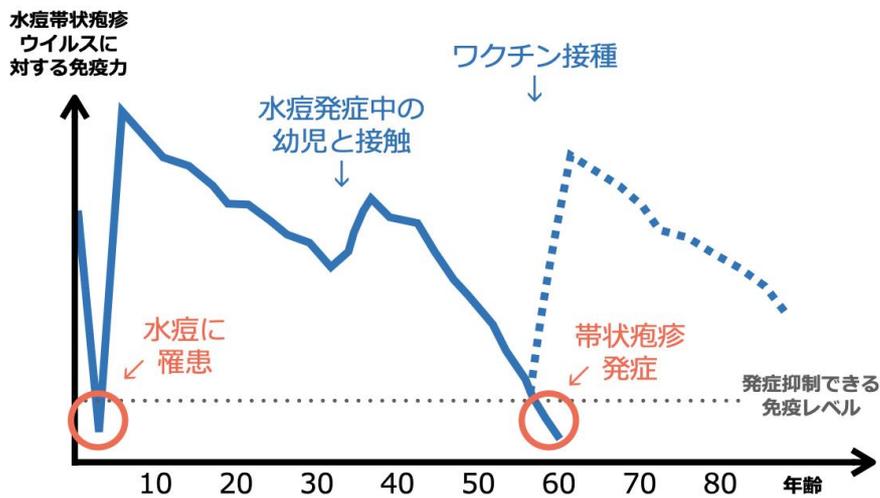


带状疱疹予防ワクチンについて

带状疱疹の発症しやすさ、予防の意義



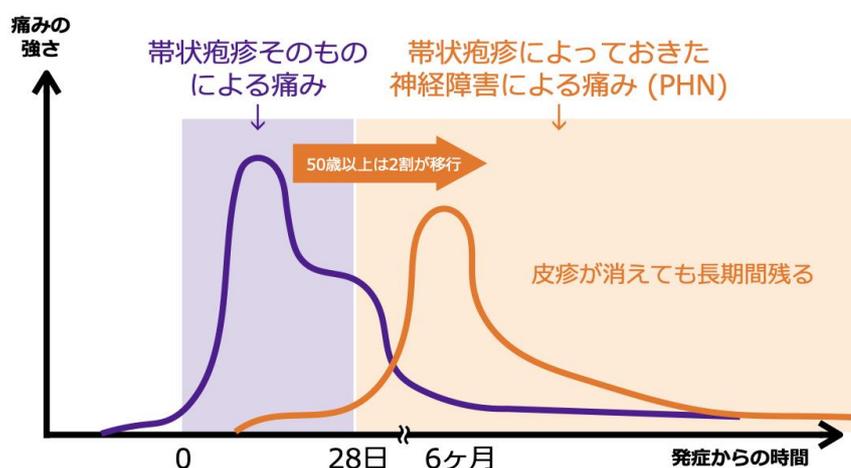
带状疱疹は 50 代から発症しやすくなり、80 歳までに日本人の 3 人に 1 人が発症するといわれています。では、なぜ 50 代から発症しやすくなるのでしょうか？



带状疱疹の原因は、水痘(みずぼうそう)と同じウイルスです。水痘になるとこのウイルスに対する免疫が活性化して病気としては治まりますが、ウイルスは体から完全に排除はされません。どこか一つの神経節に静かに潜み、免疫が低下してくると増殖し、潜んでいた神経領域のみに水疱が出現する「带状疱疹」を発症します。時間とともに免疫は徐々に低下しますが、水痘を発症している

子ども等と接触する機会があると、気がつかないうちに免疫が活性化されます、しかし高齢になると徐々に免疫力自体が低下、さらにはがんや糖尿病など免疫の低下する病気にかかることも増えるため、帯状疱疹を発症しやすくなります。これに加え、2014年からは乳幼児の水痘の予防接種が定期接種化されたことで、水痘を発症する子どもの数が激減しました。このため、日常生活の中でのこどもの接触により水痘のウイルスに対する免疫が活性化する機会自体も減ったため、今高齢者が帯状疱疹を発症するリスクは、さらに上昇しています。

帯状疱疹は、皮膚の水疱が消えてからも長期間にわたり激しい痛みが持続して、日常生活に大きな影響を与えることもあります。



特に高齢だったり、皮膚の症状が激しい場合にこのリスクが高くなりますが、50歳以上で帯状疱疹を発症した人の約2割の方がこのような長く続く激しい痛みを経験しています。ワクチンでも副反応で5日程度痛みが続くことがありますが、ほとんどの場合1週間以内には治まります。高齢になってから半年以上にわたる激しい痛みの持続は活動量の低下にもつながり、様々な影響が出る恐れがありますので、是非ワクチンでの予防をお勧めします。

2種類の帯状疱疹予防のためのワクチンについて

帯状疱疹を予防することのできるワクチンは、現在2種類あります。

いずれも現在、日本では50歳以上が対象で、任意接種となっています。

	水痘ワクチン	シングリックス
接種対象者	50歳以上の方、ただし免疫抑制剤を使用しているなど、免疫が低下している人は接種不可	50歳以上の方
費用負担	任意接種(全額自費)	
接種経路	皮下	筋肉内
接種回数	1回	2回 (2ヶ月間を空ける 遅くとも6ヶ月後までに2回目)
有効成分	弱毒生水痘帯状疱疹ウイルス	水痘帯状疱疹ウイルス糖タンパクE抗原
予防効果	50~60%	90%以上
免疫持続効果	5年程度	9年程度
菌定着防止効果	なし	あり
主な副反応	注射部位の痛み・腫れ・発赤	<u>注射部位の痛み</u> ・腫れ・発赤
価格比較	比較的安価	比較的高価
販売開始	1987年(小児の水痘予防) 帯状疱疹予防としては2016年～	2020年1月

アメリカやドイツでは、2020年現在帯状疱疹ワクチンは「定期接種」になっています。日本でも定期接種化にむけての動きもありますが、まだ何年先になるかわかりません。